

営農情報

令和4年4月8日発行
第5号

秋まき小麦の起生期追肥について

例年に比べ融雪に時間を要し、管内圃場にはまだ積雪が見られますが、秋小麦は多くの圃場で露出しはじめております。今後の起生期追肥については、早期に実施すると生育ステージが全般に進み、分けつを促進させ、以降の肥培管理にも影響が出てしまう可能性があります。そこで、起生期追肥の実施適期については、生育状況及び天候を加味しながら適正な管理を行いましょう。また、下表、起生期の生育に応じた追肥量の目安を記載していますので参考にしてください。

○生育に応じた起生期追肥量の目安

起生期茎数	窒素施用量
1,500本/m ² 以上	2kg/10a
800～1300本/m ²	2～4kg/10a
700～800本/m ²	4～6kg/10a
600本/m ² 以下	4～8kg/10a

※BB082CRを基肥として使用している場合は、生育量に応じて不足分を補いましょう。

茎数の調査方法について

《条播の場合》

- ①畝50cm間の茎数を数えましょう。(2カ所)
- ②2カ所の茎数を足して、畝幅で割りましょう。

【式】 $100 \div \text{畝幅 (cm)} \times \{ (50\text{cmの茎数}) + (50\text{cmの茎数}) \} = \text{m}^2\text{当たりの茎数}$

《大豆間作の場合》

- ①平均的な2カ所で調査しましょう。
- ②0.66m×0.3mの広さの中の茎数を数えましょう。

【式】 $2\text{カ所の茎数の合計} \times 5.05 = \text{m}^2\text{当たりの茎数}$

配布されているパンフレットもご活用下さい！